

西小は 大きな 家族

Family

～校長のたわいもない独り言・その2～

令和元年 11 月 7 日（木）No.37

発行人

今年の緑の広場の紅葉はイマイチ
だなあ(T_T)の川崎先生。残念。

修学旅行バージョン

★★行ってきました～修学旅行 10/30（水）～11/1（金）★★

まず良かったこと。三日間とも抜群の天気だったこと。暑すぎず寒すぎず、さわやかな気候は、まさに旅行日和だった（※晴男＝川崎＆小野と晴女＝川口 vs 雨男＝時田の勝負は見事に晴れの勝ち＼(^o^)/）。天気一つで旅行の印象は大きく変わる。本当に天気は最高だった。

そして、修学旅行とは、「学」＝（まなび）を「修」＝（おさめる）と書く。つまり6年生のこの時期に行くことの意味は、これまでの小学校の学習の集大成として、それを表現する場であり機会であるということ。もちろん、学校を離れて仲間と旅行するわけだから、その期待も大きく、楽しみもたくさんある。だけど、ただ単に楽しいだけならば家族旅行や仲間との旅行と同じ。そこに成長を感じられるかどうか、修学旅行の成功の大きなポイントでもある。

結論から言うと大成功。3日間で6年生は大きく成長したと思う。その理由は二つ。まず一つは、「時間を一生懸命意識するようになった」こと。もちろん100%がいいのだろうけど、人間そんなに完璧じゃない。時には時間に遅れることもあるだろうけど、一生懸命守ろうと意識した上での遅れなら、その誠意は必ず相手に伝わる。

もう一つ。それは「その場の空気を読む」ようになったこと。今、自分がどのように行動すればいいのか、周りにどのように伝えればいいのか、それが身に着いた。例えば全員が集合する時、周りを見ながら自分の位置に行き、静かに次の行動を待つ。例えば誰かの声が大きすぎる時に、口に指を当てて気づきを促す。川崎の話をしっかり受け止めて、その後の行動に生かそうとする。

旅行一日目は、旅行に対する期待感で浮足立っていて、緊張感に欠けたことは確かだった。いろんな言動に？マークがついた。しかし、それを指摘された二日目からは違った。真剣に旅行に向き合い、同時に楽しさも得る。これでいい。この素直さや誠実さが西小の6年生の最大の長所だろう。人間だれしも間違いはある。それを素直に受け止めて自分自身成長させていく。これができることこそが才能であると言えよう。

三日間の修学旅行。「まなび」を「おさめる」ための旅行として、とても価値のある旅行であったし、大成功と言っていい。本当によくがんばったね。お疲れさん。大きな家族のお兄さんお姉さんは、またひとつ大きくなって、西小の顔となりました(^)v。

●●修学旅行アラカルト●●

- ◇1日目のあじさい壮。料理長自らがその場で作ってくれた出し巻き卵。激うまっ！
- ◇海岸での”桜貝さがし”。見事に何人も発見。発見数は過去最高記録！？
- ◇東京タワーのライトアップの美しさに誰もが感動。写真の嵐！
- ◇国会議事堂での説明の丁寧さ。これも過去最高！ジョーク連発は初めて！
- ◇上野動物園のモノレール廃止最終日に遭遇。なんというタイミング！！
- ◇2日目のホテルのお風呂&夕食&朝食の素晴らしさに感動。メチャうまハンバーグ！